

令和4年度 放課後等デイサービスきらっと 事業報告書

～新型コロナウイルス感染症による感染防止対策とその対応～

今年度も引き続き感染防止策を継続し、支援にあたった。

7月13日に利用者家族より利用者のコロナ陽性の連絡を受け、前日、前々日の利用者に検査の同意を得て、滋賀県が実施するイベントサーベイランス事業を利用して接触のあった職員、利用者 PCR 検査を実施。全員の陰性を確認する2日間閉所となった。また、感染者、濃厚接触者となった利用者には利用自粛に協力いただいた。職員も濃厚接触者となり数日間出勤できないことが2名いたが、利用者の受け入れ困難や、それを理由に閉所するまでにはいたらなかった。

～寒波襲来による閉所～

1月末に数年に1度の寒波が襲来。積雪による路面凍結でスクールバス運休、家庭学習、自主登校となったため2日間の閉所とした。週が明けた30日はかがやき屋上の給湯ユニット配管が凍結により破裂し、屋上の排水配管も凍結したことにより屋根伝いに館内に漏水。特に放課後等デイサービス活動室天井からの漏水がひどく、復旧までの2日間閉所となった。

～支援体制～

7月末に保育士が退職。2月末にも看護師が退職したが、それぞれ職員補充し、支援体制を維持できた。前任保育士が担っていた活動立案、準備、活動室の清掃業務を分担することで保育士だけに負担が偏らず、それぞれの立場で利用者と向き合うことができるようになった。

～個別支援計画～

4月に個別支援計画立案のため、児童発達支援管理責任者、保育士、看護師、指導員による個別支援会議にて個々の利用者の個別支援計画を立てた。6月保護者との面談実施し、説明、署名をいただいた。

10月、個別支援計画のモニタリング実施。計画立案同様、児童発達支援管理責任者、保育士、看護師、指導員で会議開催し、1名ずつ支援について振り返りを行った。11月より保護者との面談実施し、説明、署名をいただいた。

3月初旬に年度末モニタリング実施し、来年度4月に個別支援計画立案、6月より保護者との面談実施予定。

～令和4年度平均利用者数～

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	21日	22日	21日	18日	21日	21日
利用者数合計	74人	75人	79人	65人	65人	74人
平均利用者数	3.52人	3.41人	3.76人	3.61人	3.10人	3.52人

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	21日	21日	19日	16日	20日	22日
利用者数合計	65人	73人	69人	67人	83人	87人
平均利用者数	3.10人	3.48人	3.63人	4.19人	4.15	3.95人

～職員研修～

職員相互の研鑽のため、下記研修会に参加、聴講した。

令和4年10月6日～28日 11月29日

令和4年度滋賀県サビ児管基礎研修

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としての業務に必要な資格取得のための研修（それに先立ち、10月に4日間分相当の講義をオンライン形式で受講）

事務局：滋賀県障害者自立支援協議会

令和4年12月14日

第17回権利擁護・虐待防止セミナー

障害者虐待の防止と対応

講師：社会福祉法人みんなでいきる 理事・障害福祉事業部 事業部長 片桐公彦

配信動画を聴講

令和5年1月24日

甲賀地域障害児・者サービス調整会議

相談支援ネットワーク部会・子どもの支援連絡会合同研修会

児童発達支援の実際について

講師：湖南省発達支援室 寺田久乃

甲賀市児童発達支援センターつみき 升谷裕一郎

令和5年3月15日

令和4年度サビ児管更新研修

～日常業務について～

○清掃

- ・カーテンを開けて、冷暖房で室温の調整
- ・テーブルや流し台、洗面台を消毒
- ・天井走行リフトのレール、テレビ、棚等の埃取りののち、消毒
- ・床の掃除機、モップ掛け、水拭き、消毒
- ・加湿器の水補充

○活動準備

- ・3週間に1回図書館へ、絵本や紙芝居を借りる。
- ・制作の作業準備、試作実施
- ・活動の計画（月・週・日ごと）
- ・技術向上のための練習（伴奏・読み聞かせ）
- ・当日利用者の記録用紙の準備、必要物品のセッティング

○利用者到着後から

- ・手洗い介助
- ・バイタル測定（体温は全員が対象でその他は必要な方のみ）
- ・荷物の整理
- ・家族からの引継ぎ、学校からの引継ぎの確認
- ・水分補給介助（持参がある方については間食も）
- ・排泄介助（介助のタイミングは個々に依る）
- ・全体活動支援
- ・連絡帳記入
- ・個別活動支援
- ・保護者来所時の対応

○利用者送迎について

医ケアを必要とする児童には看護師が同乗するようしており、必要に応じてポータブル電源を持参、使用している。利用者の構成によっては、かがやきの運転手に協力をしてもらうことで対応した。また、可能な限り1台あたりの乗車人数を少なくし、窓を開放しておくことで3密の回避に配慮した。

○配布物の作成

- ・きらっと便り（毎月発行）

お便りについては、日頃の活動の様子や過ごしを中心に写真を交えて作成している。文章

については指導員が、イラストなどの装飾については保育士と、分担して一つのを完成させている。

・利用日のお知らせ

翌月の利用日を示したものを作成、配布している。配布することで日程の確認、互いの失念を防ぐ役目をしている。配布後に利用日の変更があった際には口頭でのやり取りとなっているが、現在のところ不都合はない。

○施錠の確認

当事業所は通所施設であり、職員が常駐しているわけではない為、夜間は各所の施錠が必要である。しかし、建物内には施錠を必要とする箇所が多く、最後に退勤する職員がひとりで施錠の確認をすると効率が悪い。そこで、場所ごとに最終的に確認する事業所の割り当てを行い、効率化を図っている。確認後は、所定の表にチェック、記名することで責任の所在を明確にしている。

○業務日誌・家族との情報共有のための連絡帳

業務日誌の内容は、①学校への迎への時間②利用開始時刻③利用終了時刻④体温⑤心拍⑥SPO2⑦服薬の実施⑧水分摂取量⑨利用時の様子(⑤～⑦については該当利用者のみ記載)としており、入力と併せて、利用者ごとのケース記録にも同じものを残すようにしている。また、その日の利用ではなくとも保護者から連絡が入った際も、内容を残している。

利用している児童・生徒のなかには自ら他者に働きかけたり、何かを発信することが難しいケースもある。そのような方たちの様子を家族に伝え、あるいは自宅での様子を共有するツールとして、連絡帳を活用している。

～療育活動～

4月	ねらい	一人ひとりの生活リズムを大切に、新しい環境に慣れるようにする。 活動を通して仲間や職員との信頼関係を築いていく。
	主な活動内容	散歩(綾野地区周辺・水口祭り見物) 制作(季節の花) 音楽体操 スタンプラリー(かがやき・ろーぶ見学を兼ねて) お楽しみ会(4月度誕生会)
5月	ねらい	生活の流れがわかり、自発的に活動しようとする。 友だちや職員と活動や遊びを楽しむ。
	主な	制作(こいのぼり・あじさい・ネモフィラ)

	活動内容	パネルシアター 音楽活動
6月	ねらい	身の回りの様子に関心をもち、活動を楽しむ。 職員に見守られながら活動に参加し、充実感を味わう。
	主な活動内容	制作（かたつむり・にじいろのさかな） パネルシアター 季節のおはなし 音楽体操 お楽しみ会（6月度誕生会）
7月	ねらい	自然に興味をもてるようにする。 規則正しい生活を送る。
	主な活動内容	制作（にじいろのさかな続き） 栽培活動（あさがお） 音楽体操 シャボン玉 お楽しみ会（7月度誕生会）
8月	ねらい	夏を健康で衛生的に過ごせるようにする。 夏の自然に興味をもてるようにする。
	主な活動内容	音楽体操 栽培活動 制作（ひまわり・花火） レクリエーション（ダンボールドミノ・ボーリング） お楽しみ会（8月度誕生会）
9月	ねらい	生活のリズムを整え、夏の疲れで体調を崩さないように健康的に過ごす。 身近な自然物に興味を示し、描く、作るなど様々な形で表現することを楽しむ。
	主な活動内容	散歩（敷地内） 制作（ぶどう・きのこ） 音楽体操
10月	ねらい	気温の変化や体調に留意し、健康的に過ごせるようにする。 秋ならではの行事や様々な素材に触れて、出来たもので楽しむ。
	主な活動内容	制作（ハロウィン飾り） お楽しみ会（ハロウィンスタンプラリー） 消防訓練

11月	ねらい	<p>気温差に留意した環境のなかで、健康的に過ごす。</p> <p>秋の自然（虫や落ち葉・木の実）に触れ、季節の変化に関心をもちながら表現することを楽しむ。</p>
	主な活動内容	<p>制作（みのむし・もみじ）</p> <p>音楽活動</p> <p>お楽しみ会（11月度誕生会）</p>
12月	ねらい	<p>一人ひとりの体調に留意し、寒い季節を元気に過ごせるようにする。</p> <p>クリスマスの雰囲気味わい、年末年始の行事を楽しむ。</p>
	主な活動内容	<p>制作（サンタさん・トナカイバッグ）</p> <p>クリスマス会</p> <p>お正月準備（巨大年賀状）</p> <p>お楽しみ会（12月度誕生会）</p>
1月	ねらい	<p>休み明けの生活リズムを整えながら、安心した気持ちで過ごす。</p> <p>冬の自然現象を見たり触れたりし、楽しむ。</p>
	主な活動内容	<p>お正月あそび（すごろく・かきぞめ）</p> <p>制作（紙粘土での雪だるま）</p> <p>節分準備（鬼退治ドミノ）</p> <p>お楽しみ会（1月度誕生会）</p>
2月	ねらい	<p>身近な自然に触れながら寒い時期を健康に過ごせるようにする。</p> <p>友達や支援者と一緒に、制作や感覚遊びを楽しむ。</p>
	主な活動内容	<p>節分行事</p> <p>合同制作（にじのアーチ）</p> <p>ひな祭り準備（お雛様とお内裏様の制作）</p> <p>お楽しみ会（2月度誕生会）</p>
3月	ねらい	<p>健康状態に配慮されながら、季節の変わり目の時期を健康で快適に過ごす。</p> <p>進級することへの期待感をもつ。</p>
	主な活動内容	<p>ひなまつり（「無くなった笄を探せ！」ゲーム）</p> <p>防災学習</p> <p>合同制作（にじのアーチ）</p> <p>持ち帰り袋制作（1年間の作品を持ち帰る袋にペイント）</p>

～活動中の利用者の様子について～

障害の特性上、新しいものを受け入れ、習慣化するためには時間を要する利用者が多い。その為、同じ活動を繰り返しおこなうことで、その活動に対してのなじみや安心感を得られるよう働きかけることをモットーに活動を展開している。今年度も昨年度同様に、コロナウイルスの影響で地域からボランティア団体を招いての活動を断念した。来年度は状況を鑑みながら来ていただくことも視野に入れたい。活動については、その日の利用者の構成により開始時刻が前後するが、通常の放課後であれば概ね 16 時 15 分頃にはじめの会に始まり、週替わりでの活動を経て絵本・紙芝居の読み聞かせでクールダウンしたのち、帰りの会で迎えを待つ流れとしている。一方、長期休暇時は時間も長く、多様な活動をおこなえるかと思いきや排泄や水分補給、医療ケアといった生活支援に充てる時間も必要で、思いのほかあっという間に終わる。

制作活動：季節に関連した花や飾り、習字などを制作し、廊下に展示している。集中力の持続が困難なケースが多く、一度に完成させるのではなく、少しずつ短時間の取り組みを、回数を重ねるようにしている。また、正月や節分、桃の節句や端午の節句など、伝統的な季節の行事は月初であることが多くみられるため、それを見越して今年度からは前月の最終週に準備を始めるようにして徐々に雰囲気をつくるようにしていった。

散歩（シャボン玉）：夏季休業中、比較的涼しい午前施設の敷地内を散策し、光や風を感じる時間をつくる。その一環で、ガーデン前の軒下でシャボン玉を実施。利用者自身では難しい為、職員がつくって飛ばしたものを眺めることがメイン。午前中はまだまだ調子が出ない人もおり、何も考えず過ごす時間も有意義であった。しかし、夏季はシャボン液の需要が高く、販売していないこともあったため、計画的に必要な物品を準備する必要性を感じた。

音楽体操（ラジオ体操）：『てをたたきましょう』『しあわせならてをたたこう』『あたまかたひざポン』『むすんでひらいて』を活動の導入として実施。職員が見本となるように動くところを見ながら身体を動かせる子もいるが、ほとんどの利用者は聞いているのみ。しかし、それでも伴奏が始まると嬉しそうにしており、楽しんでいる様子がうかがえる。

読み聞かせ：活動の終盤に締めくくりとクールダウンを兼ねて実施。時間のある時には『ペンギンマークの百貨店』で利用者に絵本を選んでもらうようにしている。理解の容易な物語を中心に読み聞かせしているが、幼児向けの同じ音の繰り返しで構成される絵本を好む子も少なくない。

運動遊び（ダンボールドミノ・ボーリング）：段ボールを使ったドミノで、並べる作業、押す作業に分かれ、各自できる部分を担当。音を立てて倒れていく様子が面白い子や、倒れる

際の風を楽しむ子など、楽しみ方も人それぞれである。

～1年間の利用者の様子～

大森彩詠美（中学部3年）

構って欲しい時は職員を呼び、それに応えると満足そうに笑顔を浮かべている。制作ではテープを剥がす作業を得意としており、器用に指先でつまんで引っ張ることができる。今年度より利用を開始した八田愛未さんが声を出すと気に障るようで不機嫌そうな声を出してアピールしている。母にその話をすると、「人の泣き声は苦手ですが、笑い声もですか」と驚いておられた。バギー乗用時、指先でヘッドレストを搔くことが本人のなかでブームの様子で、感触が心地よいの発する音を気に入っているのかなど、詳細はわからない。年度も終盤に差し掛かった2月頃より落ち着いて過ごすことが多くなってきた印象がある。八田さんが賑やかにしていても視線を送りつつも穏やかに眺めていたり、空き時間も職員へ関わりを催促するような行動もなくなり、成長がうかがえた。しかし、ちょうど高等部進学への面談を終えた頃より再度、構ってほしいアピールが目立つようになってきた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	15回	14回	13回	11回	13回	12回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	11回	8回	13回	13回	16回	14回

堀田都琴（中学部3年）

毎年の課題である昼食について、弁当持参期間の序盤は毎回同じ職員が対応にあたって本人が受け入れるまでは時間を要するが、回数を重ねていくことで食べ始めるまでの時間が早くなる傾向にあった。しかし、長期休暇が終わり、しばらく弁当を必要としない期間があるとその間に本人のなかで「きらっとはお弁当を食べる所」という意識がリセットされるのか、再び時間を要するようになってしまうが、総じて良好な摂食状況といえる。年明けには職員が見通しを持てるように声を掛けながら、一定の手順を踏むことで、口を開けて待っているまでになった。4月には入院を必要とする歯科治療をおこなったが、その後の対応に変更はなし。活動では、手先を使う制作などはあまり好んではおらず、見るからに嫌そうな顔をしている。しかし、聴覚からの刺激のある映像学習や読み聞かせ、空き時間の音楽鑑賞は非常に好んでいる。特に音楽鑑賞では、お気に入りとそうでない曲に対する反応が明らかに異なり、後者であると「あ～！」と不満そうに声を出して曲を変えるよう、職員に伝えている。移乗について、これまでは職員2人による介助であったが、それであると身体を伸ばして車いすに座ることを拒否することがあった。主たる介護者である母親は1人で抱き抱えるようにして移乗をする為、そちらの方法が本人にとって馴染みがあり安心できる方

法であると考え、母親に倣って1人での介助に変更した。すると、本人は収まりよく車いすに座ることができるようになった。しかし、対応できる職員が限られ、かつ今後の成長を考えるといつまでもこの対応では難しい。また、自宅からの利便性からてんてんを利用していた分をきらっとに充てた結果、月当たりの利用日数も増えた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	11回	11回	9回	10回	6回	11回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	12回	9回	13回	11回	14回	13回

柗歩汰（小学部5年）

従来は紙パンツのみの着用であったが、本人の尿量に比してポリマー部分の面積が小さく、また臥床時に足を激しく動かすことによって鼠径部に隙間ができる結果漏れに繋がっていると思われた。その為、パットの使用を開始した。パット併用後は尿漏れ自体は減ってきてはいるが無くなってはいない。従来、活動終了後に浣腸での排便を促していたが、自宅実施分のみで十分な量の排便が今後も見込めるとのことから、事業所実施分は一旦終了となった。しかし、排ガスを促す目的でのうつ伏せは引き続き実施。使用しているバギーが体型に合っておらず本人が辛そうであった為、学校で使用しているバギーを参考に改良を実施。その後、8月より新しいバギーの使用を開始した。体型に合っていることからか、足をバタつかせることはなくなり、楽そうに座っている。自宅ではきょうだい3人の泣き声に苛立って怒っていると聞く。また、マスクの着用もストレスなようで声出しやマスクを唾液で濡らすことで外して欲しいと訴えており、結局マスクの使用はなくなった。他の利用者との関係については、自ら他者に働きかけることはないものの、職員が間に入ってやり取りを代弁すると、満足なのか笑みを浮かべている。また、年明けより妹の習い事の関係で月曜日は可能な限り利用したいとの要望があったため、優先的に月曜日の利用を融通。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	9回	11回	15回	11回	6回	10回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	10回	12回	13回	11回	15回	15回

宮澤恵（中学部2年）

基本的には活動では寝て、活動が終わると目を覚ますリズムで過ごしているが、調子が良い時には起きて活動に参加し、その後入眠することもある。学校へは通常の登校時間には間

に合わず、昼前に母親が送って行っているような状態。理由としては本人の体調が整わない、身辺介助に支障が出る程本人が暴れ準備ができないことと併せて、母親自身の心身面の不調によるところが大きい。そのため、午前中の授業はほぼ欠席しており、学校での学習機会の確保にも支障が出ている。サービス利用中は、突発的に叫び声をあげる、直接介助の場面では暴れるといったことが特に覚醒度合いが高い時ほど起こる。特に排泄介助の場面で著しく、壁に手足、頭を叫びながら打ち付けている。また、移乗後のバギーでも手を噛み、膝を高く上げて額を強打することもしばしばある。母親からは、本人の意にそぐわないことをするとすぐに怒って自傷行為につながるため、本人の思いを声に出して代弁したうえで、いま必要なことであるためすると、本人に語りかけるようにしているとのこと。しかし、同じような関わり方を他人である職員がしても現時点では効果的ではない。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	4回	5回	5回	3回	3回	5回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	5回	5回	4回	2回	4回	5回

大井咲陽（中学部2年）

利用回数は月に3～4回程度と多くはない。それもあって、久しぶりの利用の際には緊張している様子であるも、緊張していないように作り笑いで取り繕う。不安な時ほど手や髪を口に入れて安心しようと努めているが、衛生的ではないため都度の手拭きを求めている。しかし、繰り返し声掛けが必要で、本人から意識的に手を拭くことはない。制作で色を塗る作業の際は空いている空間をまんべんなく色で埋めるのではなく、同じ部分を塗りつぶす傾向にある。また、床に降りて過ごした後、車いすに移るが効率的な体の使い方ができていない。そのため、職員と一緒に動作を一つずつ確認しながら座位→膝立ち→立位と本人の持っている力を活かせるよう練習をおこなっている。他者との関係においては、おもちゃを介して関わりをもつ場面が見られているが、それ以上の展開はなく、本人もどのように振舞ってよいのかわからない様子。ADLを勘案すると、高等部卒業後の進路は作業所などが有力と考えており、社会性の獲得も今後の課題として支援にあたる必要がある。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	4回	3回	2回	4回	6回	2回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	3回	3回	4回	4回	3回	6回

窪田幸輝（高等部2年）

前年に引き続き一日利用の際は側臥位での除圧を実施。活動やアニメ観賞で気を紛らわせるなどすると1時間の実施も可能であるが、それでも苦痛な時は心拍を上げて訴えてくる。5月に肺音に異常みられ受診。分泌物も多く、ウイルス感染の可能性もあり入院となった。2週間後には利用を再開された。それ以降にも腹部の動きが弱くなっての入院も複数回あり。その後も、入退院を繰り返していたが、1月にIVHの増設をしたことによって体調も安定するようになった。利用時は、他の利用者の言動を見聞きしては笑顔を見せており、声を出して喜んでいることも多い。特に、音楽体操や読み聞かせを好んでおられる。意思表示は表情以外に指を動かすことでもある程度は可能で、活動に使用する材料を選んだりする場合にも本人に確認するようにしている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	5回	2回	3回	3回	6回	2回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	3回	3回	4回	0回	1回	4回

福澤拓斗（高等部3年）

保護者の食事準備や介助の負担軽減を主な目的としているため、放課後の利用はなく、長期休暇や祝日に利用がある。その際も昼食は持参ではなく、給食を提供。移乗時に過度の筋緊張がみられていた為、方法を評価。2人での介助ではなく慣れ親しんでいるであろう1人介助にするとほどよく脱力。飲食の際は顔を左に向ける傾向があり。今年に入り、本人と職員ともに要領を掴んで概ね場面ごとの細かな対応もスムーズにできるようになってきた。そのことにより本人も負担が少なくなり、過ごし場の意識が芽生え、必要以上に硬くならずリラックスして過ごしてもらえた。活動では、音楽体操が好きな様子で愛用のおとえほんに収録されている曲を演奏すると歓声をあげて喜んでおられた。高等部卒業後はかがやきの利用を開始された。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	1回	1回	0回	2回	5回	1回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	0回	0回	1回	2回	1回	卒業

松枝生龍（小学部3年）

待ち時間に動画を観て過ごし、一度気に入ったものがあると飽きるまで観続ける傾向があったが、ある時から動画ではなくブロックやゴムボールといった玩具に興味を示すようになり、そちらで遊ぶことが多くなった。しかし、遊ぶといっても主にブロックを組み立て遊んでおり、ボールは部屋中に撒き散らすことを目的としている。玩具を出す際には、最終的に誰が片づけをするのか確認すると自身を指して片付けの意思があることを主張する。しかしその後、いざ片付けの時間となって声を掛けるがすぐに応じることはほとんどなく、惜しむかのようにいつまでも遊んでいる。粘り強く声を掛けたり、少し手伝ったりすることで片付けに気持ちが向くが、最も効果があるのは手本となる利用者がいるということ。大井さんが手本を示すように片付け始めると、それに倣うかの如く同じように真似て行動に移る傾向がある。このように本人にとって身近にお手本となる先輩がいることは大きな意味を持っている。半面、八田さんが自身の手や足の指を口に入れる様を見て、自身の方が年長者であるにもかかわらず模倣している。その際は、職員が関心をもって注意などすると注目されたい本人にとって思うつぼなので、見守りつつも直接的には関与することなくやり過ごすようにしている。そのように対応することで、やがて飽きてやめている。発話について、スピーチバルブへ交換したからといって発話が促される訳でもなく、あくまで本人の気分次第であるため現在、付け替えはおこなっていない。バギーで活動に参加している時に間が持たなくなると体を揺らしてバギーを動かす。周囲の迷惑かつ、TPOに則った行動ではないため注意するが、受け入れないことがほとんどであった。そのため、利用者の並びではなく職員と前に出て「先生」の立場で参加すると行動も改まることもある。年度中、2回カニューレの詰まり発生し、対処法を家族から引き継がれていないため、いずれも利用をお断りした。また、それ以外にも本人や家族の体調不良で今年度は学校、サービスともに例年にないくらい欠席することが多かった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	13回	11回	14回	9回	8回	10回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	14回	9回	4回	10回	12回	8回

八田愛未（小学部1年）

今年度より利用開始。聴覚障害あり。その他医療的ケアは注入、排便の処置（洗腸）。バギーへの乗車は体調不良（嘔吐）予防のため、連続2時間以内となっており活動時以外は床に降りて過ごしている。本人としても自由に動き回れる床を好んでおり、バギーに乗るとなると表情が曇る。床で過ごしている間は背中が這い、構ってもらおうと人を目的に移動。バギーに乗っている時も伸ばした足で人に触りアピールしている。また、何でも口に入れる癖

があると聞いていた為、模様替えして本人が過ごす近辺からは細かな備品は撤去した。併せて、バギーに乗っている時に胸元にあるベルトを口に入れなので直接ベルトを噛まないようにタオルでカバーを作成し、取り付けた。しかし、服によっては襟元を噛んでおり、期待したほどの効果は得られてはいない。利用開始当初と比べると臥位から床座位への動きができるようになって、その動きはスムーズであるが、バランス保持に難があり、常に転倒の危険性をはらんでいる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	12回	15回	16回	10回	12回	17回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	7回	11回	12回	10回	14回	18日

中嶋柚貴（高等部1年）

今年度5月より利用を開始。利用回数は、にじいろクラブを利用できなかった日の利用となっている為、月2回程度の利用であったが、次第に回数も増えて週1~2回利用へ。かつては利用も少なく間隔も開くことから事業所に慣れておらず、不安から号泣したり袖口を噛んだりとストレスとなっていたが、利用を重ねるにつれ慣れつつある。とはいえ、現在でも他者の叫び声を聞いて不穏状態になる事はあるが、突発的に大声を出す利用者と一緒の空間は避けることや、不穏になっても初期の段階で一旦外に出るなどの場面転換をすることで情緒の早期回復に努めている。なお、スマホやタブレットでおはなしを観てもらおうと落ち着くことがあると学校から引き継いだ。はじめの会で演奏されるギターが聞こえてくるとご機嫌になりやや表情が緩むが、明確に上機嫌とわかりやすい表現ではなく、上機嫌なのか否かじっくり観察して理解できる程度。また、制作は意にそぐわないことが多いのか取り組みが長引くと自傷行為に発展するため、短時間での取り組みを心掛けている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用回数	—	2回	2回	3回	0回	3回
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	3回	4回	5回	4回	3回	5回